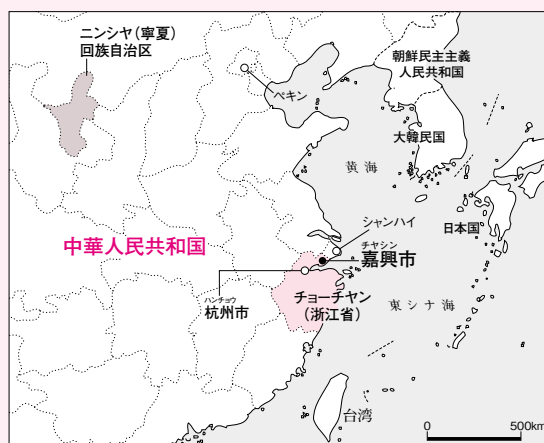


# 現代中国の少数民族

## —回族を事例に—

公益財団法人 守屋留学生交流協会第32回奨学生  
駒澤大学大学院地理学専攻

朱 偉



### I はじめに

中国出身の私は、現在日本の大学院で中国の回族に関する研究をしている。回族は寧夏回族自治区を中心に中国全土に広く散らばって住んでおり、人口は980万（2010年、第6次全国人口センサス）である。中国にはウイグル族やカザフ族、ウズベク族などのイスラム教を信仰する10の少数民族がおり、回族もその一つである。実は、私も回族だが、イスラム教徒ではない。ほとんどの回族がイスラム教を信仰しているなかで、こうしたケースは稀である。今回の機会を通じ、私の故郷である浙江省嘉興市を例に、中国の回族はどのような優遇政策を受けているのか、普段どのような生活をしているのかなどについて、日本の皆様に紹介したいと思う。

### II 少数民族の優遇政策

中国は多民族国家で、56の民族が暮らしている。漢民族は総人口の92%と圧倒的多数を占め

ている。ほかの少数民族は8%に過ぎない。1949年の中華人民共和国建国後、21世紀に至るまで、中国政府は少数民族に対し、実はさまざまな優遇政策を採ってきた。

中国の人口政策といえば、まず1979年から人口を抑制するために実施された「一人っ子政策」が頭に浮かぶ。しかし、漢民族と少数民族とは規定が異なり、「計画出産条例」によると、少数民族には「一人っ子政策」という制限が適用されていない。つまり、計画出産規制の緩和で少数民族は第二子（農村では第三子）の出産を許可される。私の母親は回族で、漢民族である父親と結婚した。少数民族に対する優遇政策があるため、私は兄弟が一人いて、四人家族である。よく小中学生の頃に、周りの先生と学生に「そうなの、兄弟がいるんだ」、「回族だからか、なるほど!」と珍しがられた。私の周囲のほとんどの回族には二人の子どもがいる。

また、少数民族の学生は進学する際にも優遇政策がある。例えば、学費減免や奨学金、入学試験の加点などである。私も政策の恩恵を受けたことがある。小学校から高校まで、学費の一部を減免されていた。当時、私の家は豊かではなかったので、家計が助かった。やはり、現在まだ貧しい少数民族の家庭が多く存在するため、この政策は子どもが教育を受ける権利を保障するうえで重要な役割を果たしている。それに加え、私は高校に進学する際、市内で最もレベルが高い高校の合格点に点数が足りなかった。しかし、少数民族の優遇政策によって、点数が10点加点された。その結果、進学希望の高校に入ることができた。少数民族の家庭に支給される一人っ子手当が漢民族家庭の2倍であったり、職場内で昇進しやすいこともあるようである。このような優遇政策により、少数民族の政治的・社会的・経済的地位も向上してきた。中国の少数民族政策は外国ではあまり知られていないが、

多民族国家である中国の統一にとって欠かせない政策の一つであり、社会の安定に重要な意味をもっている。

### Ⅲ 回族の祭り（イード）

イスラム教の影響を強く受けているため、回族の祭りは他地域のイスラム教徒と同様、毎年盛大に行われる。では、2013年8月嘉興市にて観察した「ラマダーン」と断食明けの祭り「開齋節」を紹介してみたい。

ラマダーンの期間中に、イスラム教徒は宗教的義務の一つ、「断食」として、飲食を断つ。断食といっても完全に絶食するわけではない。毎日夕方から翌未明までの間に食事をとる。この食事は普段より水分を多くしたり、ご飯を多めに食べたりする。きちんと断食している回族



図1 開齋節の集団礼拝 2013年8月8日筆者撮影

は多く、ほとんどは中高年である。若者は学校や仕事があるため、断食を行う人は少ない。断食明けの日には、盛大な祭りが開かれ、市内に分散している回族がモスクに集まる。この祭りが平日にあたる場合、市政府の配慮により、仕事の休みが取れる。この日は参加者がひじょうに多く、モスクには収容できないので、モスクの外でも集団礼拝を行った（図1）。

### Ⅳ 回族の食文化

回族の食文化の特徴として、豚肉を使わない、食物を加工するときは、必ずイスラム教の規定

に従わなければならないなど、ハラールが遵守されている。このハラールは、イスラム教徒ではない回族にとっても食文化として根づいている。今年夏の調査では、清真（ハラール）レストランを営んでいる回族（白さん）にインタ



図2 清真レストランの入口 2013年8月筆者撮影

ビューを行うことができた。白さんの祖父たちは1920年代に嘉興市に来た。当初、生計を維持するため、麺類、餃子などの飲食店を始めた。今の店（図2）は、2008年にオープンし、経営面積は400㎡を有する。白さんは、「市内には小さな清真レストランしかないので、回族が結婚式を行う場所がない」、「外部のイスラム教徒がここに来たとき、食事する所が見つからない」という理由から、この店をつくった。実際、白さんにはほかの本業があり、清真レストランからの収入はわずかである。白さんは回族の食文化を残したい、また回族の交流の拠点をつくりたいと考えているようである。

### Ⅴ おわりに

回族は現代に至るまで、漢民族からさまざまな影響を受けながらも、独自の社会集団、生活様式を維持してきた。また、中国各地で都市開発が進められており、回族の古い住宅地が残っている地区もある一方で、取り壊されている居住地域もある。このような回族の地域社会の持続と変容について、今後の調査を通じて考察を続けたいと思う。